


# 中野区にやってきた新任の先生

昨年の中野区の学校へ着任した新任の先生をご紹介します。

様々な抱負をもって先生になり、いろいろな経験をしながら1年間がんばってきました。その過程で楽しかったことも苦労したこともあったと思います。

それぞれの思いが凝縮されたコメントから、中野区には魅力的な先生がたくさんいることが実感できるでしょう。それぞれの先生が子どもたちのためにさらに力が出せるよう皆さんのご声援をお願いします。

**勤務学校氏名**

①1年間を通して感じたこと

②先生としての夢



**桃園小学校**  
海老沼寛之先生

- ①「人に何かを教える」ということの重みを強く感じている。一瞬一瞬を大切にするため、日々の指導に全力を注いでいく。
- ②子どもたちのことが大好き。何年たってもこの気持ちを忘れず、子どもと共に笑ったり、喜んだりできる先生でいたい。



**中野神明小学校**  
深澤美穂先生

- ①子どもたちの目に映る世界は驚きと発見に満ち溢れている。その豊かな感性を更に伸ばしていくような教育活動を実践していきたい。
- ②2年半ネパールでボランティアをしていた。その経験を生かし、生きる力や国際感覚を持った子どもたちを育てていきたい。



**塔山小学校**  
鈴木恭子先生

- ①子どもの何でも学ぼうとするスポンジのような吸収力と柔軟さに、ただただ驚かされる1年だった。子どものかわいさを実感した。
- ②「弱さ」（人間に共通する悲しみを知る感性）を共有することができる心性を備えた教師になること。



**中野本郷小学校**  
三ツ矢和仁先生

- ①一年を通して感じたことは、授業の大切さ。教師が試行錯誤を繰り返して、創造した授業は、子どもたちにわかる楽しさや充実感を味わわせ、輝かせるということ。
- ②学びを通して、子どもたちを生き生きと輝かすことのできる教師になること。学ぶ楽しさや喜び、感動のある授業を創造していきたい。



**江古田小学校**  
増田陽先生

- ①手探りの毎日だったが、子どもの笑顔と、保護者の温かい心。そして同僚の支援に励まされ、この一年を無事に終えようとしている。心から感謝しております。
- ②「子どもと共に歩む」という姿勢を常に忘れず、教師として研究・研鑽に励み、常に自己を向上させていく教師でありたい。



**啓明小学校**  
松澤智子先生

- ①私自身にこやかでいると、子どもにもこやかに一日を過ごせるということを感じた。いつも心にゆとりを持てるように...
- ②いつまでも、元気で明るい教師でいたい。いつも、子どもと共にある教師でいたい。(子どもの目線で、一緒に泣いたり、笑ったり。)



**仲町小学校**  
永田量子先生

- ①小さな出来事にも大きく驚いたり、喜んだり、時には悲しんだり...。そんな子どもたちと共に日々発見の連続だった。
- ②何か一つ、子ども心に深く刻み込む教師になりたい。自分のカラーを出し、子どもたちにとって魅力的な大人でありたい。



**多田小学校**  
満井千春先生

- ①「子どもはひとりの人間である」ということをあらためて感じた。教師と子どもではなく、人と人として信頼関係を築いていきたい。
- ②子どもの心にいつまでも残る教師になりたい。そのために、自分の魅力づくりに努め、子どもとの心のつながりを大切にしていきたい。



**多田小学校**  
友野華子先生

- ①教師の仕事は、とても大変だと感じた。でも、子どもたちの笑顔を見る度に、教師になってよかったと思えた1年だった。
- ②子どもたちの心に残るような先生になりたい。小学校の時、あんな先生いたなと思う出してもらえようような先生になりたい。



**中野昭和小学校**  
深井奈緒先生

- ①自分に自信をもつことができた時の子どもの伸びゆく力は、本当にすごい!!「ほめて伸ばす」ことの大切さを感じた。
- ②子どもたち一人ひとりがもつ、各々の大いなる可能性を最大限に発揮できるように授業や学校生活をつくっていくこと。



**沼袋小学校**  
山崎早苗先生

- ①児童に寄り添い離れず、児童といっしょに歩んだ一年。児童の笑顔は私の活力源。体力は消耗しても、気力みなぎる毎日だった。
- ②すべての児童に自信をもたせたい。その力のある教師となり、児童の光輝く笑顔を見るのが夢。生涯かけてがんばります。



**武蔵台小学校**  
宮澤光彰先生

- ①やっぱりこの仕事は、好きだなということ。日々、成長していく子どもの姿に励まされることが多かったと感じる。
- ②退職してから、たくさんの教え子に会うこと。それまでいっぱいの子どもに出会い、囲まれて過ごしたい。



**西中野小学校**  
水川小百合先生

- ①あっという間の一年間、日々が教師の土台をつくる大切な時期だったと感じている。落ち込む事もあったが、子どもたちの笑顔に助けられ、頑張ることができた。
- ②小さい頃の夢が叶って、とてもうれしかった。今度は、子どもたちに希望と夢を与えられるように、いつも輝いていた。



**第六中学校**  
伊藤一永先生

- ①様々な事柄を解決していくためには、自分ひとりの力ではなく協力がなければ解決できないことを改めて痛感した。
- ②物事をよく観察し、関連づけて考え、問題解決の過程や結果を振り返りながら考えることができるように指導をすること。



**第十一中学校**  
林円先生

- ①中学校の三年間は子どもが大きく成長する時期。その大切な場に関わらせていただけることに、幸せと同時に責任を感じている。
- ②生徒が「是非受けない」と思う授業づくりをしていくと同時に、いつも元気に明るく、生徒たちと共に学び続けていきたい。



**第十一中学校**  
木下智弘先生

- ①中学校の教諭となって感じたことは、教員という仕事のやりがい。生徒の成長する姿が日々の活力となっている。
- ②これからの社会を担うことのできる、信頼ある生徒を育てることが夢。道は険しいだろうが、努力を続けたい。

## 風

以前多摩動物公園のチンパンジー舎で飼育実習をする機会に恵まれました。朝の仕事の一つに夜具（ヒーヒー豆の麻袋）の回収があります。それぞれのチンパンジーが夜に使った夜具を部屋の入口まで持ってきて、担当者に手渡します。あくまでも本人が「手渡そう」という気持ちにならなければ回収できません。どんなに部屋の入口でいても、相手が「無視」を決め込んだらどうにもなりません。これだけ意思がはつきりしているのに、「こぼす」が通じないから大変です。さきまで起きていたのに、回収に行くところ、たまたま「入り」を持っていたり、入口まで持ってきておもしろい袋の上に乗ったり、渡すふりをして、実は足の指でしゃかりにしゃごを押し当てたりと、様々な方法で実習生をからかいます。そんな時にベランの担当者が通るとそそくさと夜具を差し出すのです。チンパンジー達は担当者の日々のやりとりの積み重ねの中から、相手を信頼し、尊敬するようになるそうです。彼らは「こぼす」「コミュニケーション」を行わない分、人間の態度をよく観察しているようでした。彼らの信頼を得るには、ひたすら誠意を持って接するほかないのです。

教習委員 柿沼 美紀